連　携　医　療　機　関　の　皆　様　と　共　に　歩　む

連携いわい

平成 28 年 5 月
第 12 号
岩手県立磐井病院

『磐井病院新築移転から 10 年と増改築工事』

病院長　加藤　博孝

2006 年（平成 18 年）の当院移転にあたっては、両磐医療圏における中核的病院として施設・設備の充実を図り、更には圏域の医療の確保を図るため、磐井病院と南光病院を同時に新築移転・併設することが決まり、病床数 315（一般 305 床、結核 10 床）、20 診療科、免震構造で建築計画されました。

2006 年 4 月 1 日、岩手県立病院で初めての電子カルテ導入、岩手県初の緩和ケア病棟を有する新磐井病院が開院しました。2007 年 1 月には病院機能評価受審、2009 年 7 月に DPC 対象病院指定があり、DPC では電子カルテが威力を発揮しました。

2012 年 4 月に、前鮏名院長の後任として私が院長に就任し、2013 年 2 月には導入後 7 年経過した電子カルテのハードの入れ替えを行い、システムのパフォーマンスが素晴らしく向上しました。

2016 年 4 月現在、両磐地域の県立医療機関は 4 病院（磐井、南光、千厩、大東）と 1 地域診療センター（花泉）で構成され、県立病院等の経営計画において、当院は圏域における中心的な役割を担っています。さらに、「地域がん拠点病院」「地域周産期拠点病院」の指定も受けており、岩手県南・宮城県北の拠点医療機関としても機能しています。

当院では、移転後約 9 年半が経過し、2015 年 9 月から 2017 年 8 月の 2 年の工期で、救急等の増改築工事を行っています。工事の内容は、救急・中央処置部、診察室 1 室など約 1.6 倍に拡張することと、化学療法室のベッドを現在の 7 床から 12 床に増床、歯科口腔外科の治療ユニットを 3 台から 6 台に増台することです。工事期間中は、騒音や救急室が仮設になるなど、住民の皆様や消防をはじめとする関係機関へご迷惑をおかけすることになりますが、完成すれば、救急車の受入をはじめとする救急診療や、がん薬物療法がスムースに行えることが期待されますので、皆様のご協力をお願いいたします。

2006 年の移転当初は救急受診患者数が多く危機的状況であり、落ち着くまでに 2 年を要しました。現状では、1 日約 40 名の救急患者と約 9 台の救急車を受け入れており、受入台数は 2009 年度に比べると 1.35 倍に増加しています。いわゆるコンビニ受診の抑制が図られなければ、本当に救急対応が必要な患者さんの診療に影響が出る状況ですので、夜間休日当番医の受診を進めるなど、地域の皆様のご理解と行政の取り組みを期待しております。

また、当院の重要な役割として、『教育』があります。36 年前から、研修医を受け入れてきた実績があり、2004 年に臨床研修指定病院の指定を受け、『いわてイーハトーヴ臨床研修病院群』を形成する県内 12 病院のひとつとして、研修医を毎年コンスタントに受け入れております。現在は、初期研修医 11 名が働きながら学んでおります。

以上、当院が狐禅寺に移転してから 10 年の経過と現在の状況を書かせていただきました。

最後に当院は全ての診療において、病院全職員 510 名が一丸となって医療の質を高めるべく努力しております。今後も地域の他の医療機関や、保健福祉施設、行政と密接に連携していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

―目次―

・P.1……『磐井病院新築移転から 10 年と増改築工事』
・P.2……連携ボックスのご利用方法について
　　― 部門紹介『薬剤科』―
・P.3…イベント催事のご案内、紹介率・逆紹介率
　　新任医師の紹介
・P.4……研修医の紹介

―部門紹介　「薬剤科」―

薬剤科長　佐山　英明

薬剤科は現在１３名の薬剤師で、調剤・薬剤管理指導・製剤・無菌調剤・医薬品情報・薬品管理等の業務を行っています。調剤室は地下１階で南光病院の調剤室と隣り合わせとなっており国内でも類を見ない構造となっています。投薬窓口は１階にあり、調剤したものを１階に運んで患者さんに渡しています。このように複雑な構造になっているため、夜間や土日祝日の１人勤務時は上下左右に走り回って業務を行なっています。

平成２７年７月に「病棟薬剤業務実施加算」の施設基準を取得し、すべての病棟に専任の薬剤師を配置しています。病棟薬剤師は、医師等の業務負担軽減および薬物療法の質の向上のために、持参薬の確認や、使用に注意が必要な薬（ハイリスク薬等）の説明と管理に力を注いでいますが、今年度は病棟業務内容の充実を目標に掲げて、ポリファーマシーへの関与を推進し、より多くの入院患者さんに関わりを持てるよう取り組みたいと考えています。

がん関連業務では、抗がん剤を専用の安全キャビネットを使い薬剤科でミキシングしています。プロトコールに従って十分にチェックすることで、清潔で安全な抗がん剤が使用されるよう努力しており、投与される患者さんには、薬の効果や副作用、治療中に注意していただきたいことなどについて説明を行い、薬物療法が安全・安心に実施されるよう支援しています。現在、１０月予定の外来化学療法室増築移転に合わせてミキシングルームを移動することになり、機器更新や業務体制の見直しを行っている最中です。

チーム医療では、がん、緩和、感染、NST 等に参加し、医療の質の向上や医療安全に貢献することを目指しています。また、退院時の指導にも力を入れており、院外薬局へ入院時の服薬情報が伝わることで患者さんを中心とした連携ができるよう取り組んでいます。

薬剤師の白衣はオレンジ色のラインが入った上着です。オレンジ色は喜びや幸福感、親しみ、元気、明るいといったポジティブな印象を与えると言われていますが、患者さんや他職種の方のビタミン剤的な存在になれればと思います。

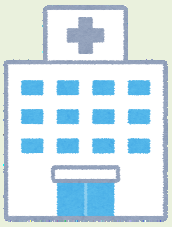
―連携ボックスのご利用方法について―

両磐広域を中心に医療画像データの送受信を行う「連携ボックス（一関医療連携ネットワークシステム）」について、今回はあらためて利用登録手続きの手順をご紹介いたします。

【利用登録でご準備いただくもの】

①利用申請書（申込利用申請書は磐井病院地域連携室から送付します。必要な方は担当まで連絡願います。）
②インターネット利用が可能なパソコン（Windows7 または MacOS-10 以上を推奨）
※上記②の整備は各施設様の負担となります。毎月の使用料・年会費等は発生しません。

【登録手順】



１．ＦＡＸで利用申請

「利用申込書」をご記入のうえ、医療連携ネットワーク事務局（磐井病院：地域連携室）へ FAX 送信または郵送して下さい。

２．端末の設定

後日、磐井病院職員が訪問し、端末の設定を行います。
（作業時間は、操作説明を含め概ね１～２時間程度です）

３．ログインし利用開始

デスクトップのアイコンをクリックし、ID／パスワードを入力して連携開始となります。

連携ボックスの利用で、画像等データ提供が迅速かつ簡単になりますので、未使用の施設はぜひご利用をご検討下さい。
詳細については事務局へお問い合わせ下さい。

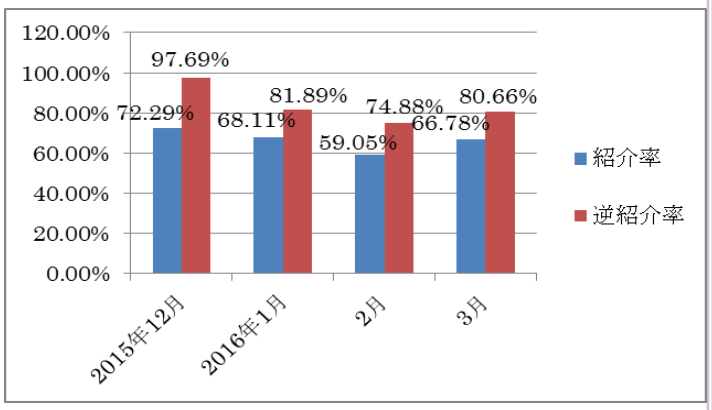
担当：地域医療福祉連携室（ネットワーク事務局）
TEL：0191-23-3452　内線 8105/1354
FAX：0191-23-3990（直通）

イベント・催事のご案内

地域の医療従事者・施設職員の方など、どなたでも参加可能です。お誘い合わせのうえご来場ください。

・6 月 11 日（土）『よろず講演会＆茶話会』
　・時間：午後１時 30 分～午後４時 30 分
　・場所：磐井病院５階会議室
　・内容：「がんピアサポーターって何？」
　・講師：びわの会代表　高橋　みよ子さん
・6 月 20 日（月）『緩和ケアテレカンファランス』
　・時間：18：30～19：30
　・場所：磐井病院多目的会議室
・7 月 8 日（金）『平成 28 年度第 1 回クリニカルパス大会』
　・時間：17：00～18：40
　・場所：磐井病院多目的会議室

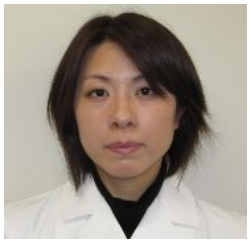
当院の紹介・逆紹介率



当院では、平成 25 年 10 月に地域医療支援病院の指定を受けており、紹介・逆紹介率は地域病院との連携状況を測る指標となっております。

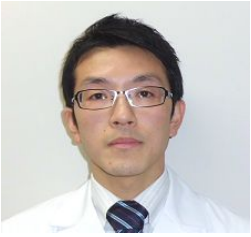
今後とも、患者様のご紹介についてどうぞよろしくお願いいたします。

新任医師のご紹介



（ちだ　ゆうこ）
氏名：千田　優子
役職名：整形外科医長

・出身大学：山形大学（H17 年卒）
・所属学会：日本整形外科学会、東日本手外科研究会
　日本骨折治療学会、　日本足の外科学会
・専門分野：一般整形
・ひとこと：どうぞよろしくお願いいたします。



（ほんだ　じゅんや）
氏名：本田　純也
役職名：消化器科医長

・出身大学：岩手医科大学（H20 年卒）
・所属学会：日本内科学会（認定医）
　日本消化器病学会（専門医）
　日本消化器内視鏡学会（専門医）
　日本消化管学会
・専門分野：上部消化管
・ひとこと：丁寧な診療を心掛けて参ります。
　よろしくお願い致します。

（なかやま　あつし）
氏名：　中山　温史
役職名：歯科口腔外科医長

・所属学会：日本口腔外科学会認定口腔外科専門医
・専門分野：口腔外科全般、歯科一般
・ひとこと：微力ではありますが、専門性を生かし、
　地域医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。宜しくお願い致します。

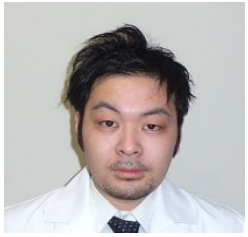
（さとう　のりお）
氏名：佐藤　紀夫
役職名：小児科医師

・出身大学：東北大学（H25 年卒）
・ひとこと：まだまだ未熟者ですが、地域の皆様の
　要望にこたえられる、小児医療を目指して頑張ります！

研修医のご紹介

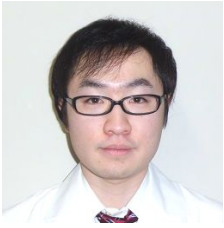
（あきもと　さとし）
氏名：秋元　仁志
役職名：研修医

・出身大学：岩手医科大学（H27 年卒）
・ひとこと：よろしくお願いします。



（せいの　よしやす）
氏名：清野　精康
役職名：研修医

・出身大学：岩手医科大学（H27 年卒）
・ひとこと：よろしくお願いします。



（こばやし　きみひこ）
氏名：小林　公彦
役職名：研修医

・出身大学：東北大学（平成 28 年卒）
・ひとこと：よろしくお願いいたします。

（かまだ　ひろふみ）
氏名：鎌田　啓文
役職名：研修医

・出身大学：岩手医科大学（H28 年卒）
・ひとこと：よろしくお願いします。

（ささき　けんた）
氏名：佐々木　健太
役職名：研修医

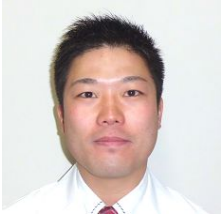
・出身大学：新潟大学（H28 年卒）
・ひとこと：一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

（こまい　あつたか）
氏名：駒井　富岳
役職名：研修医

・出身大学：山形大学（H27 年卒）
・ひとこと：元気を持って頑張ります。よろしくお願いします。

（つちたに　ゆうま）
氏名：土谷　祐馬
役職名：研修医

・出身大学：東北大学（H28 年卒）
・ひとこと：精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。



（しょうばら　しゅういち）
氏名：庄原　秀一
役職名：研修医

・出身大学：弘前大学（H28 年卒）
・ひとこと：よろしくお願いします。

（やまざき　ともかず）
氏名：山﨑　友和
役職名：研修医

・出身大学：岩手医科大学（H28 年卒）
・ひとこと：研修医生活非常に楽しみです。よろしくお願いします。

【編集・発行】
岩手県立磐井病院　地域医療福祉連携室
病院ホームページ：http://www.iwai-hp.com
公式 Facebook：http://www.facebook.com/iwaihp
【連絡先】
〒029-0131　岩手県一関市狐禅寺大平 17
・電話：(0191)-23-3452　・FAX(0191)-23-9691
・地域連携直通 FAX(0191)-21-3990

連 携 医 療 機 関 の 皆 様 と 共 に 歩 む

連携いわい

平成 28 年 9 月

第 13 号

岩手県立磐井病院

総看護師長あいさつ

総看護師長　小田島　淳子

4 月から磐井病院に着任いたしました小田島淳子と申します。6 年ぶりの急性期病院の著しい変化に驚きつつ、再度脳をリフレッシュさせスタートいたしました。

当院の第一印象は、「チーム医療を推進していく中で、共に育んでいく“学び”の文化が醸成されている」ということです。このことが患者さんやご家族により近い目線で実践され、その成果を感じ、共有する機会を楽しみにしております。

さて、少子高齢社会に対応し医療・社会保障の仕組みは、保健・医療・福祉が一体となりながら健康な社会を目指す地域包括ケアシステムに大きくかじを切りました。その様ななか、命の誕生から最後の時を迎えるその時まで「尊い命」により深くかわる看護を特徴としている当院では、「いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護」（日看協）のビジョンのもと実現に向けた今年度のキーワードを“看護のたすきでつなぐ笑顔”としています。キーワード「つなぐ」を軸に「これまで」を振り返りながら、磐井病院の「これから」を考えてみました。

その 1：ボランティア「ばっきゃの会」「こころば」の皆様の活動が 10 周年を迎えました。その活動は外来での患者さんのサポート、小児科・緩和ケア病棟での行事、がん患者さんのサロン、屋上庭園の手入れなど多岐に渡ります。病院と地域の架け橋になっていただいているボランティアの皆様の精神性の高さや心の温かさに、衷心より感謝申し上げます。これまで築かれた地域との絆をより深化させ、強いものにしていきたいと思います。

その 2：「赤ちゃんに優しい病院」を目指し、母乳育児の 10 か条をもとに赤ちゃんがすくすく育つよう医療チームで支援がはじまりました。また 7 月からは、退院支援部門が 4 人体制となり退院後の生活を共に考え、専門職種の皆様と連携し、患者さんが「笑顔で退院」できるように活動をはじめました。これまで以上に地域の皆様と「対話」する機会をもち、「顔の見える関係」を深めていきたいと思います。

その 3：10 領域 13 名の認定看護師、専門看護師がチーム医療の要として活動しています。院内活動の他、学校・保育所・公民館・施設などで講座の開催や、生活習慣病の予防に関すること、癌、乳がん、疼痛緩和、糖尿病、感染、皮膚排泄（褥瘡）、救急看護などの相談も受けています。お気軽にお声をかけてください。

『学ぶということの証は何かが変わること。』と言われます。職員一人一人が自分を磨いていくことは、専門職業人としての持てる力や患者さんご家族への思いを体現できる自分づくりをすることにつながっていくことだと思っております。私自身も新たな組織で共に働く仲間の皆さんと語り合い、感謝しながら、真摯さを持って『看護のたすき』をつないでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ー目　次ー

● 総看護師長あいさつ・・・・・・・・1 ページ
● 栄養管理科の紹介・・・・・・・・・・2 ページ
● 新任医師の紹介・・・・・・・・・・・・2 ページ
● 退院支援室の紹介・・・・・・・・・・3 ページ
●平成 28 年度自治体立優良病院表彰の受賞・・・3 ページ
●イベント・催事のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 ページ
●紹介率・逆紹介率の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 ページ

栄養管理科の紹介

栄養管理科長　馬場　美喜

栄養管理科は管理栄養士７名、調理師２４名、調理手５名の総勢３６名の大所帯で、給食管理及び栄養管理業務を担っています。給食管理業務は、磐井病院と南光病院の一般食・特別食の提供を行っています。患者様の状態に合わせ、ゼリー・刻み・ミキサー状などに食形態も調整しています。入院食は、治療の一環となります。

安全で美味しく召し上がっていただき、さらに療養中の楽しみとなり得るよう、栄養管理科スタッフ一同で努力しているところです。季節を感じていただける行事食及び調理工夫。朝食においては、洋食メニューの選択。月に２回、調理師考案で趣向を凝らした特別メニューも実施しています。その他、県産食材を用いた‘いわて食財の日’を設定しています。今年６月からは岩手県の取り組みである‘いわて減塩・適塩の日’を毎月２８日に設け、美味しく減塩できるメニューを提供し、減塩への理解を深めていただきたく実施しています。現在、岩手県では脳卒中死亡率ワースト１脱却！！を目指し、活動中です。また、緩和ケア病棟においては、ボランティアの皆さんと月に１回ティーサービスを行い、手作りスイーツを提供し喜ばれています。

栄養管理業務は、他職種連携により入院患者様の栄養評価、栄養管理計画を作成し、入院中の患者様個々に合せた栄養管理を NST 専従管理栄養士中心に行っています。また、家庭における食事療法の支援として、入院及び外来共に、栄養食事指導にも力を入れています。平成２８年１月からは地域連携の一環として、地域連携栄養指導を開始しました。始めての試みのため、糖尿病限定とし、開業医の先生方からご依頼を受けています。

新たな取り組みを加えながら、患者様に寄り添う栄養管理科を目指し、日々、大奮闘しています。

【緩和ティータイムサービス】

新任医師の紹介

６月１日から産婦人科の医師として着任した医師をご紹介いたします。

【プロフィール】

・氏　　名：西本　光男（にしもと　みつお）
・出身地：大阪府
・出身大学：岩手医科大学（H16 年卒）
　（教室）　（東北大学産婦人科教室）
・所属学会：日本産婦人科学会産婦人科専門医・指導医
（専門医等）日本周産期新生児医学会母胎・胎児専門医
　　母体保護法指定医
・専門分野：周産期医学・生殖医学
・ひとこと：よろしくお願いします。

2

退院支援室の紹介

退院支援専従看護師　高橋　里

当院では、平成 28 年 6 月より退院支援室を設置しました。退院支援部門：専従看護師 1 名、専任社会福祉 1 名、専任看護師 2 名で指導し、平成 28 年 9 月より看護師 1 名増員し、現在計 5 名でそれぞれ病棟を担当しながら、入院患者さんの退院や転院への支援を行っています。

入院中の患者さんの中には「ずっと病院へおいてほしい」「退院と言われても家は無理です」「家に帰りたいけど心配です」と難渋するケースも多く、病状や家族状況で必ずしも希望に添うことが出来ない場合もあります。その中でも医師、看護師、MSW、リハビリ部門などと情報共有し、思いを傾聴しながら奮闘している毎日です。

当院の機能から在院日数の短縮化や DPC、医療の高度化、医療依存度の高い患者の増加に加え、少子超高齢化社会、認知症の増加、老々介護、認々介護、独居、高齢世帯など時代背景からも退院支援は大きな役割を担っていると考えます。

入院後早い段階から退院後の生活を見据え、生活の場に帰るにはどうしたらよいかを考え、安心して退院出来るよう支援していきたいと思っています。当地域の高齢化率は、すでに３０％を超え、2025 年には 37%を超える予測です。当院だけでは完結できない時代であり、地域の病院、ケアマネージャーさんや訪問看護師さんの協力をいただきながら支援をしていきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

退院支援室には人生経験豊富な人材が揃っております。退院に関することなどお気軽にお立ち寄り下さい。今後ともよろしくお願いいたします。

平成28年度自治体立優良病院表彰の受賞

院長　加藤　博孝

この度磐井病院が、全国自治体立優良病院表彰（両協議会会長表彰）を受賞しました。当院の職員の頑張りが評価され大変嬉しく思います。

当院は、昭和 24 年（1949 年）に、広域中核病院として設立され、設立 67 年になります。2006 年には、315 床の現在の病院に新築移転し、同時に電子カルテを導入して 10 年が経過しました。当院の DPC 病院Ⅲ群の「機能評価係数Ⅱ」は、2014 年度、2015 年度 2 年連続トップで、今年は 7 位でした。これは、職員のたゆまない努力と、電子カルテがなくてはできないことでした。このような点も評価いただけたのではないかと考えております。

このような栄誉ある賞をいただけましたのも、地域医療の各機関・施設のご協力あってのものであります。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今後とも、患者様のご紹介等引き続きよろしくお願いいたします。

～両院協議会会長表彰～

全国自治体病院開設者協議会及び公益社団法人全国自治体病院協議会の両会長による表彰で、各都道府県組織の推薦をもとに、経営努力による経営の健全性が確保されており、かつ、地域医療の確保に重要な役割を果たしている病院に対して表彰するもの。

イベント・催事のご案内

10 月 17 日（月）　岩手緩和ケアテレカンファランス（症例担当：県立中央病院）
場所：磐井病院多目的会議室（テレビ会議システム）
時間：18：30～19：30

11 月 6 日（日）　『一関市医療と介護の連携連絡会』研修会
場所：一関保健センター　多目的ホール
時間：14：00～16：00
対象者：医療関係者及び一般市民
テーマ：『歩ける幸せをいつまでも　ー高齢者の骨折についてー』

11 月 17 日（木）　磐井病院がん患者・家族サロンこころば
よろず講演会　『新しい抗がん剤について』
講師：東北大学病院腫瘍内科　下平　秀樹　先生
磐井病院薬剤科　村上　正美　氏
時間・場所：14 時～15 時 30 分　磐井病院 2F 多目的会議室

11 月 21 日（月）　岩手緩和ケアテレカンファランス（症例担当：県立中部病院）
場所：磐井病院多目的会議室（テレビ会議システム）
時間：18：30～19：30

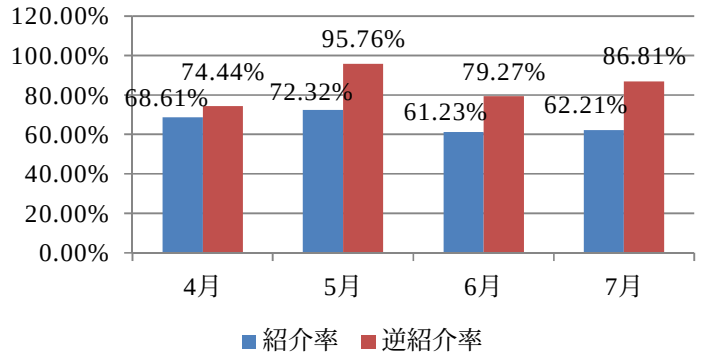
12 月 10 日（土）・11 日（日）　第 9 回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会
磐井病院 2F 多目的会議室

紹介率･逆紹介率の状況

（平成 28 年 4 月～7 月）

当院は、平成 25 年 10 月に地域医療支援病院の指定を受けており、紹介・逆紹介率は地域病院との連携状況を測る指標となっております。

今後とも患者様のご紹介についてどうぞよろしくお願いいたします。



岩手県立磐井病院

【連絡先】
〒029-0131　岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話 (0191) -23-3452　Fax　(0191) -23-9691
連携室直通 Fax　(0191)-21-3990

【編集･発行】
岩手県立磐井病院　地域医療福祉連携室
病院ホームページ：http://www.iwai-hp.com
公式 Facebook：http://www.facebook.com/iwaihp

連携医療機関の皆様と共に歩む

連携いわい

平成 29 年 1 月
第 14 号
岩手県立磐井病院

「岩手県立病院等の経営計画（2014 年-2018 年）」における磐井病院の状況

事務局長　菅原　朋則

この経営計画は、県医療局において、医師不足等の限られた医療資源の中で、県民に良質な医療を持続的に提供するため、他の医療機関との役割分担と連携をより一層進め、安定した経営基盤の確立の実現に向けた方策を明らかにするため策定されたものです。

当該経営計画において、磐井病院をはじめとした、県立基幹病院が担うべき役割と機能については、大きく次の３項目となっております。

① 圏域の基幹病院としての機能を担い、二次救急医療や、がん治療、緩和ケア、周産期医療等の高度・専門医療を行う。

② 地域医療支援病院機能を充実し、介護、福祉等との連携を強化する。

③ 医師や医療技術者等の研修・養成支援を通じた人材育成を行う。

以上の当院が担うべき役割と機能のうち、①救急患者数の状況、②がん治療関係、③周産期関係、④各種研修会等の開催関係の 4 項目について、平成 27 年度の実績等をお知らせいたします。

①救急患者数の状況について

１日当たりの平均救急患者数は３７人で、前年度と比較し３人の減少となっています。地域別等患者数の割合を見ると、多い順に、西磐井地区 68%、東磐井地区 18%、宮城県栗原市 5%、奥州市 3%、他都道府県 3%、その他宮城県 2%、その他県内 1%となっております。

②がん治療関係について

外来化学療法の実施件数 2,007 件（対前年度比 46 件減少）となっています。また、緩和医療関係では、緩和ケア病棟の 1 日平均入院患者数が 17 人（対前年度比 3 人の増）、がん性疼痛緩和指導料算定件数 362 件（対前年度比 3 件の増加）、がん患者指導管理料算定件数 469 件（対前年度比 146 件の増加）となっております。

③周産期関係について

27 年度の分娩件数は 640 件（対前年度比 43 件の増加）で、うち時間外分娩件数 246 件（対前年度比 138 件の増加）、深夜・休日分娩件数 245 件（対前年度比 63 件の増加）、帝王切開件数 170 件（帝王切開率 26.6%、対前年度比 7 件の増加）となっております。

④各種研修会の開催状況いついて

医療関係者向け研修として、「一関地域の医療従事者向け研修会」を全 32 回、「緩和ケア医療従事者研修会」、「医療系学生対象の多職種連携教育『いわい IPE』」を各 1 回開催しました。また、地域市民向けのものとして「どこでも医療講座」を全 13 回開催しました。

【目次】

◆「岩手県立病院等の経営計画（2014～2018）」磐井病院の状況…P.1
◆総合診療科開設について…P.2
◆臨床工学技術科の紹介…P.2
◆医療と介護の連携連絡会議…P.3
◆小児科救急医療セミナーを終えて…P.3
◆新任医師の紹介…P.4
◆紹介・逆紹介率の状況…P.4

総合診療科開設について

当院において、**平成 29 年１月より新たに『総合診療科』の外来を開設しました**のでお知らせいたします。
　診療日・対象患者等は下記のとおりですが、主に診療科を特定できないような症状・疾病の初期診療を担当し、専門診療科への橋渡し的な役割を担います。
　地域の先生方におかれましては、該当症例の患者様の御紹介につきまして御高配いただきますようお願いいたします。

１．診療日程等

○**毎週木・金曜日　午前**（受付 8：30～11：00、外来ＡＵ－Ｂ）
○**完全予約制**（他科と同様に診療情報提供書を添付し、事前に FAX 予約願います）

２．担当医

院長　加藤　博孝（総合診療科長兼務）

３．対象疾患等

○診療科を特定できない症状・疾患の患者様
○複数の健康問題をもった患者様
○禁煙外来（外科から総合診療科に変更となります）
○予防接種（小児以外の不定期なもの）
○ほか、感染症分野、慢性疼痛（原因のわからない痛み）、ヘルニア、肛門疾患、がんに関する相談（セカンドオピニオン以外のもの）など

臨床工学技術科の紹介

臨床工学技術科　高山　秀和

　臨床工学技士という職種はあまり聞きなれないかと存じますので簡単にではございますが臨床工学技士の紹介を致します。臨床工学技士は 1987 年に制定された国家資格で医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門医療職種です。院内では医師をはじめ、看護師、放射線技師等と共に医療機器を用いたチーム医療の一端を担っております。また、医療系資格の中で唯一、業務指針に保守点検という文言があることから「いのちのエンジニア」とも呼ばれています。両磐地域では岩手県立磐井病院、岩手県立千厩病院、西城病院、岩手クリニック一関、一関病院、国立病院機構岩手病院で臨床工学技士が勤務しております。

　続いて岩手県立磐井病院臨床工学技術科の紹介を致します。現在磐井病院には 5 名の臨床工学技士が勤務しております。主な業務内容は血液透析、心臓カテーテル業務を始めとする臨床業務、各種医療機器の保守管理、医療機器に関連する安全啓蒙活動、365 日 24 時間　の待機体制による救急医療対応を行っております。当科では両磐地域の医療に少しでも貢献できるよう研鑽してまいりますので今後ともよろしくお願い致します。岩手県立病院に勤務する臨床工学技士のユニフォームはえんじ色です。院内で見かけた際はお気軽にお声掛け下さい。

(公社)日本臨床工学技士会のマスコットキャラクターの「シープリン」

医療と介護の連携連絡会議

第１神経内科長　川守田　厚

一関市医療と介護の連携連絡会研修会が平成 28 年 11 月 6 日に一関保健センターにて開催されました。この会は 1 年に数回行われているがその中の 1 回を昨年より磐井病院が担当しています。

昨年は認知症をテーマに研修会が開催されました。今回は『歩ける幸せをいつまでもー高齢者の骨折についてー』をテーマに開催し、当日は約 120 名の聴衆が参加し、会場には介護用品の展示コーナーが設置されました研修会では５題の講演が行われ、まず初めに福島県喜多方市のあきもとクリニック院長の秋元登志夫先生に「骨粗鬆症と骨折」という演題で、ロコモティブシンドロームの話を織り交ぜながら解りやすい内容で講演をしていただきました。

磐井病院神経内科からは「転倒と骨折」、岩手病院からは骨折患者の運動の仕方を、実演を織り交ぜながら「高齢者の転倒～手術後のリハビリテーションについて～」という演題で発表していただきました。

介護老人保険施設やまゆりには「生活の中での転倒予防」の演題で、家具の置き場所や床の段差の利用法など、家庭内での転倒予防について発表していただきました。

一関病院からは「栄養改善から行う骨折予防」の演題で、骨に良い食材、骨に悪い食べ合わせなどを講演していただきました。

全体的に解りやすく、日常生活に即した講演内容で参加者の評価も高かったと思います。

小児救急医療セミナーを終えて

小児科長　丸山　秀和

平成 28 年１１月２６日、一関保健センターにおいて小児救急医療セミナーをさせていただきました。その日はいい秋晴れの土曜日で、ちょうど他に何らかのイベントがあったらしく、そのイベントと重なったようですが、それでも１０数名の方々がこのセミナーにいらしてました。セミナーにいらしていただいた皆様方、また、このセミナーを支援していただきました一関市保健所健康づくり課の方々にはこの場をお借りして謝意を表したいと思います。

さて、以前よりセミナーでお話ししておりますが、他の地域にも負けず(?)、一関市の小児医療は未だに苦戦を強いられているのが現状です。一関市のみならず奥州市や宮城県北の一部の方々も受診されており、それは日中のみならず夜間や休日も変わりない状況です。そんな環境ですから、なかなか当院ですべての小児患者を対応するのは極めて困難な状況であり、そんな状況の中、少しでも状況を改善できるよう、症状に応じて家庭等でも適確に対応していただけるようセミナーをさせていただきました。当地区の小児医療についてはまだまだ厳しい状況が続くものと考えておりますが、セミナーでお話ししたことが少しでも皆様方のお役に立つことを願っております。

新任医師の紹介

12月1日より当院の整形外科の医師として着任した医師を紹介いたします。

【プロフィール】

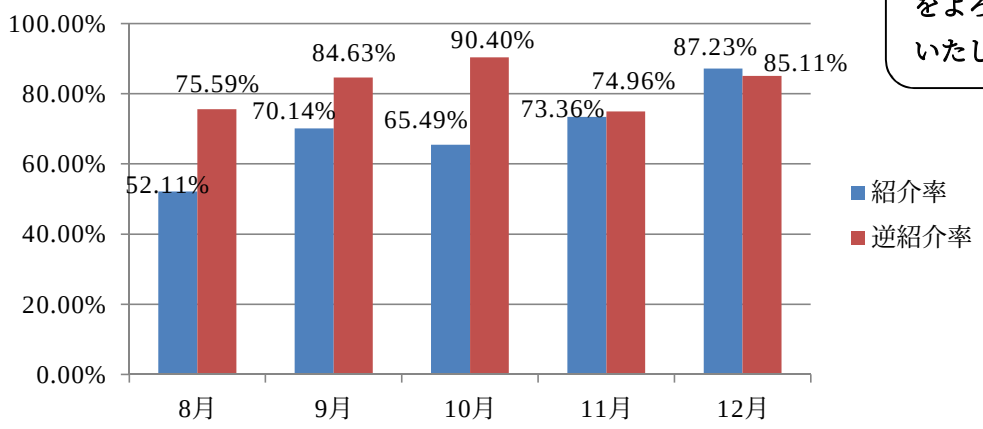
・氏　　名：菅原　恒（すがわら　こう）
・出 身 地：岩手県一関市
・出身大学：聖マリアンナ医科大学（H19 年卒）
・所属学会：日本整形外科学会
・専門分野：整形外科一般、外傷
・ひとこと：12 月より磐井病院勤務となりました。
　　よろしくお願いいたします。

紹介率・逆紹介率の状況　（平成 28 年 8 月～12 月）

当院は、平成 25 年 10 月に地域医療支援病院の指定を受けており、地域の中核病院として各医療機関との間で、適切名役割分担と連携を図っていくことが求められています。紹介率・逆紹介率は、その連携状況を測る指標となっています。

〈承認要件〉

①紹介率 80%を上回っていること（紹介率 60%以上であって、承認後 2 年間で当該紹介率が 80%を達成することが見込まれる場合を含む。）
②紹介率が 60%を超え、かつ、逆紹介率が 30%を超えること。
③紹介率が 40%を超え、かつ、逆紹介率が 60%を超えること。



岩手県立磐井病院

【連絡先】
〒029-0131　岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話 (0191) -23-3452　Fax　(0191) -23-9691
連携室直通 Fax　(0191)-21-3990

【編集･発行】
岩手県立磐井病院　地域医療福祉連携室
病院ホームページ:http://www.iwai-hp.com
公式 Facebook:http://www.facebook.com/iwaihp

連　携　医　療　機　関　の　皆　様　と　共　に　歩　む

連携いわい

救急外来をリニューアルしました

救急看護認定看護師　佐藤　加代子

〈救急待合室〉

救急外来では年間 12,412 名（平均 34 名／日・平成 27 年度）の診療を行っています。その中で入院を必要とする患者は 24.2%で、その比率は年々増加し検査や治療に時間を要しています。患者一人あたりの処置に要する時間が長くなればそれだけ次に待つ救急患者のベッド確保が難しくなってきます。

一関市の 65 歳以上人口が 33.7%であることから、受診患者には高齢者が多く、車椅子や歩行器、ストレッチャーによる移動が必要となります。このような患者の変化に対応するには、今までの救急外来では導線が悪いうえ手狭であり移動時の安全確保、ベッド間のプライバシーの確保が厳しく、多くの緊急度や重症度の高い患者の受け入れが厳しい環境となっていました。

これらの問題を解決するために、2017 年 2 月にリニューアルした救急外来は、オープンフロアーでスタッフが診療状況を把握しやすく、処置や移動に十分なスペースの確保、ベッド間のプライバシー確保が可能な仕切りを設置しました。さらに、重症疾患の処置を行うため麻酔器や外傷処置器材を配置した重症処置室を１室増設しました。救急専用のシャワースペースも確保し外傷創部処置や化学物質による事故対応も可能となりました。一番の改修は薄暗く寒い廊下の一部を待合としていたところを、救急待合室として整備し暖かい環境でお待ちいただけるようになりました。さらに、トリアージ室を設置し院内トリアージの充実も図ることができました。

二次救急医療施設として入院を必要とする患者や、緊急度が高く早急な処置を必要とする患者とその家族が安全に待てる環境、疾患に応じた処置が可能となる環境を整備しました。しかし、スタッフ数は従来と同じため収容できる患者数は変わらないことをご理解いただき、今後ともご協力を宜しくお願いいたします。

〈重症処置室〉

〈急患室〉

【目次】

・１ページ…救急外来をリニューアルしました
・２ページ…地域連携パス検討会について、当院におけるインシデント報告数
・３ページ…平成 28 年度どこでも医療講座の実績
・４ページ…今年度の紹介率・逆紹介率の状況(H28.4～H29.2)、救急患者の推移（H28.4～H29.2）
編集後記

両磐大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス検討会について

地域連携室　高江柄　甫

両磐地域で運用している、大腿骨頸部骨折地域連携パス（以下、大腿骨パス）、脳卒中地域連携パス（以下、脳卒中パス）についてご紹介いたします。

大腿骨パスは、急性期を磐井病院が、回復期を市内６病院が担い、維持期・施設へつなぐ形で運用しており、今年度の適用件数は６３件（２月末時点）となっており順調に件数を伸ばしております。

脳卒中パスは、急性期を磐井病院と昭和病院、回復期を市内４病院が担い、維持期・施設へつないでいっており、今年度の適用件数は６件（２月末時点）となっており、適用件数・連携医療機関を増やしていくことが課題となっております。

また、連携医療機関が年３回集まり地域連携パス検討会を開催し、情報の共有やパス用紙の改訂、事例の検討を行っています。写真は先日開催されました検討会の様子です。どちらの検討会も地域連携パスを通じたより良い地域連携を目指して議論を行っております。

各医療機関のみなさまには両磐地域大腿骨頸部骨折地域連携パス、両磐地域脳卒中地域連携パスのスムーズな運用にご協力いただき感謝申し上げると共に、今後の更なる活用に関しまして、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【検討会の様子（右：大腿骨、左：脳卒中】

当院におけるインシデント報告数

医療安全管理専門員　須田　佳与

当院における患者誤認に関するインシデント報告数は、2010 年度から増加傾向にあり、2015 年度には年間 40 件の報告数まで増加しています。そのうち約半数が外来部門で発生しています。

外来部門は時間に追われる業務の性質上、患者確認エラーが生じやすい環境です。そこで、あらかじめ患者協力をお願いする院内表示や、外来基本票の患者確認チェックの実施、安全ラウンド、発見レベルでのインシデント報告を促し早期に介入することで、患者への影響度の高い事象レベルが 4 割から 1 割に減少し、現在では発見レポートが全体の約 4 割まで増加しています。

また、内視鏡部門では侵襲を伴う検査・処置の場面でサインイン・タイムアウト・サインアウトを実施し、患者誤認防止と多職種の情報共有により確認エラーは減少しています。

今後において“ 意識に残らない流れ作業 ”とならないようヒューマンエラーの特性を踏まえた職員教育や定期的な振り返りなど、誤認防止の取り組みを継続して実施していきます。

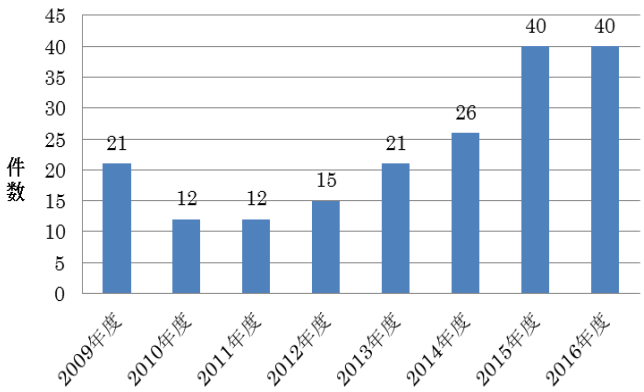


図1　年度別患者誤認報告件数　*2016年度は2月現在

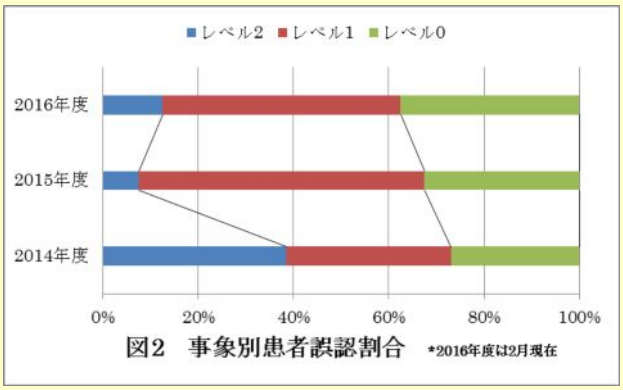


図2　事象別患者誤認割合　*2016年度は2月現在

レベル 0：間違ったことが患者に実施される前に気づいた場合

レベル 1：間違ったことが実施されたが、患者には変化がなかった場合

レベル 2：事故により患者に変化が生じ、一時的な観察が必要となったり、安全確認のために検査が必要となったが、治療の必要がなかった場合

平成 28 年度どこでも医療講座の実績

今年度のどこでも医療講座は、合計 10 回開催しました。今年度も多くの講座を開催することができました。

今年度は、髙橋幹夫臨床検査技師長の「感染症予防について」、佐藤加代子救急看護認定看護師の「こんな時どうする？応急処置を知ろう」の 2 題が特に人気でした。

当院の『どこでも医療講座』は、地域住民の希望に応じて、当院の担当職員を講師として派遣し、講座を開催するものです。当院の職員持つ、専門分野の知識を広く周知することで、地域住民の保健・医療・福祉に対する意識や知識の向上に寄与することが目的です。来年度も今年度同様に活動していきます。

実施日	団体・組織名	会場	演題	演者
5/12	一関保健センター 健康づくり課	一関保健センター	糖尿病について	糖尿病認定看護師 大谷　明子
6/5	一関市油島市民センター	一関市油島市民センター	①こんなときどうする？応急処置を知ろう ②手洗い教室	①救急看護認定看護師 佐藤加代子 ②感染管理認定看護師 佐京　里美
10/5	一関地区保育協議会保健衛生分科会	一関保健センター	乳幼児アレルギー、皮膚トラブルについて	新生児ケア認定看護師 四垂　真弓
10/24	（株）富士通ゼネラルエレクトロニクス	社内会議室	①インフルエンザなどの感染症予防 ②検査データの見方・解釈を説明します	臨床検査技師長 髙橋　幹夫
10/25	一関地区保育協会主任分科会	一関保健センター	①感染症予防について ②最近の予防接種について	臨床検査技師長 髙橋　幹夫
11/5	幸町保育園	幸町保育園	①感染症予防について ②おくすりの正しい使い方について	①臨床検査技師長 髙橋　幹夫 ②薬剤科 大柏　芳彰
11/10	一関保健センター健康づくり課	一関保健センター	感染症予防について	臨床検査技師長 髙橋　幹夫
11/14	高梨悠々サロン （萩荘高梨地区介護予防教室）	高梨公民館	こんな時どうする？応急処置を知ろう	救急看護認定看護師 佐藤　加代子
1/17	一関地区保育協議会健康分科会	一関保健センター	①乳幼児アレルギー、皮膚トラブルについて ②こんな時どうする？応急処置を知ろう	①新生児ケア認定看護師 四垂　真弓 ②救急看護認定看護師 佐藤　加代子
2/6	一関市子育て支援課母子健康係	一関保健センター	退院後の母乳育児について	主任看護師兼主任助産師 菅原　純子

今年度の紹介率・逆紹介率の状況　（H28 年 4 月～H29 年 2 月）

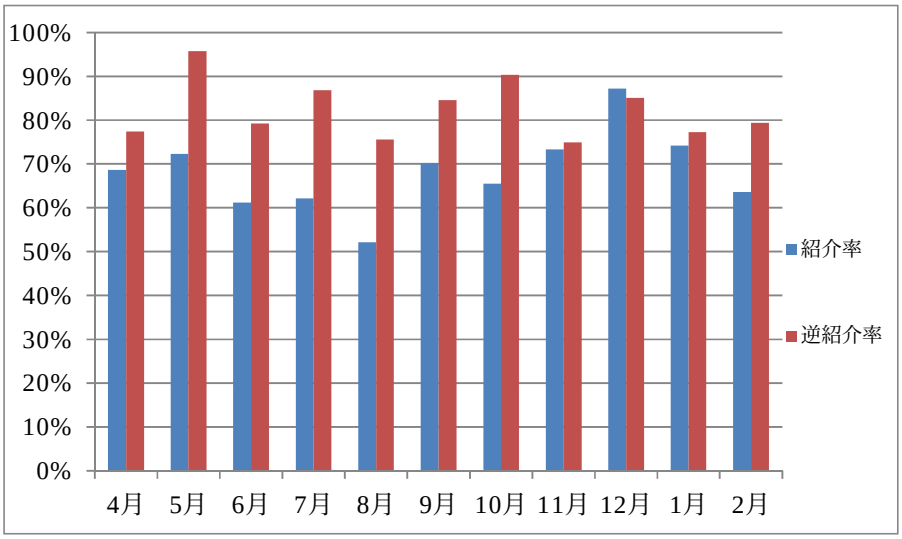
当院は、平成 25 年 10 月に地域医療支援病院の指定を受けており、地域の中核病院として各医療機関との間で、適切名役割分担と連携を図っていくことが求められています。紹介率・逆紹介率は、その連携状況を測る指標となっています。

〈承認要件〉※①～③のいずれかを満たすこと

①紹介率 80%を上回っていること（紹介率 60%以上であって、承認後 2 年間で当該紹介率が 80%を達成することが見込まれる場合を含む。）

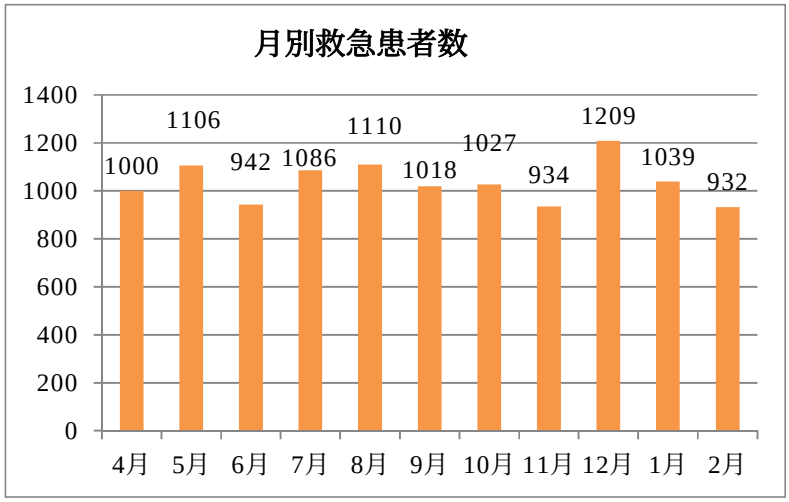
②紹介率が 60%を超え、かつ、逆紹介率が 30%を超えること。

③紹介率が 40%を超え、かつ、逆紹介率が 60%を超えること。



	紹介率	逆紹介率
4 月	68.61%	77.44%
5 月	72.32%	95.76%
6 月	61.23%	79.27%
7 月	62.21%	86.81%
8 月	52.11%	75.59%
9 月	70.14%	84.63%
10 月	65.49%	90.40%
11 月	73.36%	74.96%
12 月	87.23%	85.11%
1 月	74.17%	77.30%
2 月	63.65%	79.42%

救急患者数の推移（H28 年 4 月～H29 年 2 月）



今年度の月別救急患者数のグラフです。

5 月・8 月はそれぞれゴールデンウィーク・お盆期間の連休のため、また夏季の熱中症や虫刺傷、冬季にはインフルエンザ・ノロウィルスの流行や積雪に伴う転倒など、季節的な要因によっても救急受診が多くなる傾向があります。

磐井病院では、平均して毎月 1000 人前後の救急患者（うち救急車の台数は毎月約 200 件程度）を受け入れていますが、軽傷の方もまだまだ多い状況です。患者様の適正受診にご協力をお願いいたします。

編集後記

月日が経つのは早いもので、気がつけば今年度も残すところわずかとなりました。この時期はあわただしく、ゆっくりと今年度を振り返ることがなかなかできずにいます。皆さまの 1 年は、いかがだったでしょうか。

当院の医療機関向け広報誌「連携いわい」は、今号で 15 号目となりました。今年度 4 号目でもあり、例年よりも多くの情報をお届けすることができたと感じております。来年度も、定期的な発行を目指し、当院の情報を提供してきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【編集・発行】

平成 29 年 3 月発行　第 15 号

岩手県立磐井病院　地域医療福祉連携室

〒029-0131　岩手県一関市狐禅寺字大平17

電話 (0191) -23-3452　連携室直通 Fax　(0191)-21-3990